週報 W RAPID *Weekly Report on Aomori Prefecture Infectious Disease*

青森県感染症発生情報　（2007年第36週）

発行　青森県感染症情報センター（2007年9月14日）
（青森県環境保健センター：担当　微生物部）
TEL　017-736-5411、FAX　017-736-5419
青森県環境保健センターホームページ
http://www.pref.aomori.lg.jp/eiken/index.html

Ⅰ　第36週の発生動向（2007/9/3～2007/9/9）

1. **咽頭結膜熱については**、上十三保健所管内において第14週から、むつ保健所管内では第16週から、**警報**が継続しています。
2. **手足口病については**、上十三保健所管内において第34週から**警報**が継続しています。
3. **ヘルパンギーナについては**、上十三保健所及びむつ保健所管内において第34週から、東地方+青森市保健所管内では第27週から**警報**が継続しています。

Ⅱ　第36週五類感染症定点把握

注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数	東地方(再掲)		青森市（再掲）	
疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	(前週からの増減)	数	定点	数	定点
(100) インフルエンザ															0				
(72) RSウイルス感染症															0				
(73) 咽頭結膜熱	9	1.00	4	0.44	1	0.11			2	0.33	2	0.50	18	0.43	5			9	1.13
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.22	12	1.33	1	0.11			7	1.17	12	3.00	34	0.81	1			2	0.25
(75) 感染性胃腸炎	21	2.33	4	0.44	6	0.67	7	1.40	3	0.50	15	3.75	56	1.33	-5	7	7.00	14	1.75
(76) 水痘	3	0.33	2	0.22	2	0.22			5	0.83	1	0.25	13	0.31	3			3	0.38
(77) 手足口病	9	1.00	9	1.00	17	1.89	20	4.00	24	4.00	6	1.50	85	2.02	-14			9	1.13
(78) 伝染性紅斑	1	0.11			2	0.22							3	0.07	-2			1	0.13
(79) 突発性発しん	4	0.44	3	0.33	2	0.22	3	0.60	1	0.17	4	1.00	17	0.40	-9			4	0.50
(80) 百日咳															-1				
(81) 風しん									1	0.17			1	0.02	1				
(82) ヘルパンギーナ	27	3.00	14	1.56	6	0.67	11	2.20	41	6.83	61	15.25	160	3.81	-48	12	12.00	15	1.88
(83) 麻しん（成人を除く）															0				
(84) 流行性耳下腺炎	1	0.11	1	0.11	7	0.78			1	0.17			10	0.24	-6			1	0.13
(86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎							1	1.00					1	0.09	1				
(95) マイコプラズマ肺炎					2	2.00					1	1.00	3	0.50	0				

定点数	インフルエンザ（内科+小児科）	小児科	内科	眼科	基幹
東地方	2	1	1	0	0
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
青森市	12	8	4	2	1
合計	65	42	23	11	6

■ は警報　　■ は注意報　　「空欄」：患者発生数0

Ⅲ　表Ⅱ以外の感染症法対象疾患

（注：結核については4月1日からの累計で、届出数は速報値です）

（ 9）　結核(二類全数把握疾患)：弘前1人、八戸1人、青森市1人　　(19年計:111人)
（14）　腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)：東地方1人、上十三1人、むつ5人、青森市1人　　(19年計: 31人)

感染症の窓　結　核

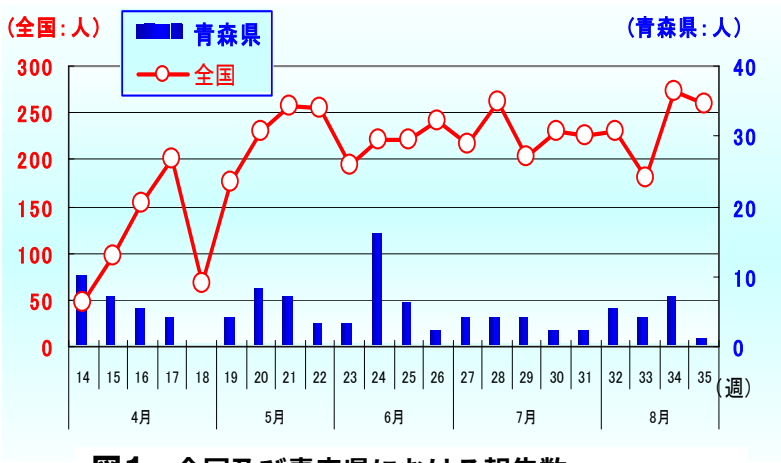

図1　全国及び青森県における報告数
（2007年第14週～第35週まで）

表1　全国における結核死亡者数の年次推移
（統計データ：厚生労働省）

年次	死亡数	年次	死亡数
昭和25年	121,769	平成６年	3,094
昭和30年	46,735	平成７年	3,178
昭和35年	31,959	平成８年	2,858
昭和45年	15,899	平成９年	2,742
昭和50年	10,567	平成10年	2,795
昭和55年	6,439	平成11年	2,935
昭和60年	4,692	平成12年	2,656
平成元年	3,527	平成13年	2,491
平成２年	3,664	平成14年	2,317
平成３年	3,325	平成15年	2,337
平成４年	3,347	平成16年	2,330
平成５年	3,249	平成17年	2,295

本疾患は、2007年感染症法一部改正に伴い、重篤性や感染力の度合いから、二類感染症に加わりました。過去の病気とされていましたが、国内報告数は、2007年4月1日からの累計で4,000人を越え（図1）、国内死亡者数（平成17年）では、2,000人を超えています（表1）。本県においても、多い週では、第24週に18人の届出数となっています（図1）。感染予防 → **2週間以上続く咳や痰、胸痛、倦怠感などが長引く方**は、早めに医療機関を受診し、早期発見、早期治療を開始することが大切です。
（ ＊ 9月24日～9月30日は結核予防週間です ）。